

「別所線が、再開したよ」そう言う祖父の声は明るくて、電話越しでも、笑顔が想像できた。「やったー。良かったね。」私まで、とても嬉しくなって、思わず大きな声が出た。

上田電鉄別所線。それは上田駅から別所温泉駅間を結ぶ鉄道路線だ。私も祖母と家族で別所温泉に行ったときに使い、赤い鉄橋は私の思い出の中にある。上田市に住む祖父は毎週、この路線を利用していた。

しかし、三年前の十月。台風十九号により千曲川橋梁が崩落し、運休になってしまったのだ。母から、祖父が時間をかけバスで行っていることを聞いたときは、安心と心配が交ざって複雑な気持ちになった。それが二〇二一年三月に、運転を再開したのである。祖父の電話で、そのことを知った私達家族は、とても温かい雰囲気にも包まれていた。

それから一年以上が経ち、神奈川県土木費のうち二十五・五パーセントが河川海岸費を占めているということを知った。その費用、約二百七十二億円は公共事業に使われる税金のうちの一部なのだ。そのグラフを見た後に、一つの考えが生まれた。もしかして、上田電鉄の復旧にも税金が関わっているのではないだろうか。そう思い、早速調べてみた。

すると、そこには知らなかった事実があった。国土交通省が新たな制度を導入したのだ。この制度により、上田電鉄が保有する鉄道を市有にすることを条件に千曲川橋梁再建が行われていた。交付税措置などで、九十七・五パーセントを国が負担するという政策がとられていたのである。

それまで漠然としたものだった税金が何に使われているか、ということが、少し自分に近付いた気がした。上田電鉄別所線の復旧。これにより、祖父を含む多くの人々の生活が守られたと思う。「復旧復興してほしい」そう思ったのは、きっと私も含めて、その地域の人だけではなかったのではないだろうか。そんな願いを税金は叶えてくれたのだ。

生活・思い出。納税や消費税による税金は、私たちの大切なものを支えている気がする。笑顔、安心。税金は、私たちの幸せを守ることにつながっていると感じる。被害を受けたものや地域の復旧復興。そこには、思いやりがある。所得税の再分配。そこには、助け合いがある。公園や小中学校。そこには、期待や希望がある。そして、そのすべてに人とのつながりがある。そう思っている。

教科書を開けば、私たちが考えれば、学べば、その度に未来が生まれる。可能性が広がっていく。だから、どこまでも駆け抜けてみせよう、と思う。いけるところまで。少子高齢化や人口減少の進行、公債残高の増加。今後、多くの課題に直面するだろう。それでも、きっと私の生きる日本は、持続可能な社会だ。明るい社会だ。そのために、課題に向かっていくのだ。今を信じて生きられる未来を必ず歩けるようにしよう。